

第2回 猪名川町北部地域医療のあり方検討委員会委員意見

番号	発言者	意見内容
1	A委員	杉生診療所の存在意義は、地元住民が一番近くに医療機関があることで、安心して暮らせることにある。 空き家移住の件でも、医療機関が無くなるとマイナスイメージが大きい。 医師の超過勤務短縮については、杉生診療所単体で見るのではなく、他の医療機関を含めて考えないといけない。 前回の会議同様、医療機関継続に投資するという発想を持ってもらいたい。
2	A委員	町の公共交通では、医療法人に対する補助金よりも多額の補助金支出をしており、医療法人に対する補助金額が少ないと感じた。 医療設備に関しても、固定的に投資として支出してもらいたい。 町の南北格差があり、北部地域は我慢を強いられる。
3	B委員	杉生診療所等の送迎は、大島小学校区のみか？
4	C委員	杉生診療所に受診されていた患者さんの送迎を行っている。診療内容によっては、北田原のせいふうクリニックへ送迎している。 町全体を送迎対象としているわけではない。 送迎に関しては、試験的に実施しているので、細かな内容を修正しながら実施している。 5年前では1日平均15人程度、現在では1日平均10人以下、赤字も相当額になっている。 また、医療機器の老朽化もあり、建物を含め更新は困難な状況にある。
5	B委員	高齢者のうち、自力で送迎バスでの通院が困難な人もいる。そういう人の利用についても、検討してもらいたい。
6	C委員	他の医療機関でも、通院が困難な人もいるので、訪問診療、往診など検討する必要がある。 オンライン診療の場合、郡部だけでなく都市部でも通院困難な人もいるので、訪問診療実施について考えたい。
7	A委員	町内の公共交通やチョイソコなど、バス利用の試みはあるものの、利便性など充分でない。
8	B委員	公共交通機関とチョイソコで料金が高くなる。高齢者など年金生活者は料金が高いと利用できない。 そのため、医療機関が近くにあることが必要になってくる。
9	D委員	チョイソコは、南部では頻繁に利用があるものの、北部での利用が少ないと聞いている。 チョイソコについては、説明会に関して不満がある。
10	A委員	チョイソコは、その利用開始のときから、バスの連携がうまくいっていないと思う。
11	B委員	オンライン診療や訪問診療が、通所の外来受診よりも高額なら、高齢者など年金生活者は医療費が高額になり、受診できない。
12	E委員	大阪府大東市で有料ボランティアによる送迎を行っている地域がある。
13	A委員	三田市の広野地区、高平地区でも同様の取組みがあり、大島小学校区まち協で取り組んでいる。 事業継続にあたり、運転手などの担い手の確保が課題。
14	A委員	町から提案される内容について、できる方向での提案をしてもらいたい。 マイナス要因を増やし、できないというのは簡単。 現に、杉生診療所は週5日の診療から、週1日の診療になし崩的に減少している。
15	C委員	今回のあり方検討委員会は、医療に関する検討を行うが、介護の検討も必要と考える。 医療と同様、介護でも訪問看護があり、訪問系サービスにより、利用者を複数の目で観察し、情報交換することが必要と考える。
16	F委員	杉生診療所の継続は？ 経営的に無理か？
17	C委員	杉生診療所の継続は、経営的に困難。 現状、町からのサポートにより継続している。
18	G委員	次回、医療提供体制に、交通手段についても検討します。公共交通問題には、担当職員の出席をお願いしますか？